

自然観察 NOW

NO : 22

野幌森林公園自然情報

発行 : 2017年8月3日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



森の中に危険が潜む

自然観察や体力向上などに、森林公園での時間を堪能する人々が多くいますが、森の中には危険が存在することを認識し、事前に対策を講じて被害を回避しましょう。

<マダニによる被害>

今春、札幌市内に生息するアライグマやネズミなどの野生動物の約1割が「ダニ媒介性脳炎」のウイルスに感染していることが分り、ウイルスを保有するマダニが札幌市内の山林に広く分布していることが判明しました。

先月には、道南で「ダニ媒介性脳炎」による全道2例目の被害が発生し、マダニによるウイルスの感染症が少なからず存在していることが分かりました。

被害回避の対策

- ・長袖、長ズボン、帽子、手袋を着用。首に巻くタオルも活用して肌の露出を避ける。
- ・虫が付きにくく、付着しても確認しやすいつるつるした白っぽい服を選び、虫よけ剤を使う。
- ・上着や作業着を家の中に持ち込まず、シャワーや入浴時に体を確認する。脇の下や足の付け根、手首、髪の中などに注意。
- ・加害された場合、吸血中は無理に引き抜かず皮膚科で除去してもらう。
- ・潜伏期間があり、数週間体調の変化に注意。発熱などの症状が出たら医療機関へ。

(※札幌市保健所などの説明から引用)

<スズメバチ>

スズメバチは、フィールドでの遭遇率の高さと、死亡事故にまで到る可能性を考えると、クマや毒蛇などよりもはるかに危ない昆虫です。8月以降は最も活動が活発となり遭遇する機会も多くなります。

事前の服装の留意点

- ・黒系の服装と香水や整髪料は、ハチの興奮を誘うので、薄色の服装を着用し、香水や整髪料は利用しない。

スズメバチに遭遇した時の対応

- ・姿勢を低くし、ゆっくりとその場を離れる。手で払わない。音を立てない。

スズメバチ刺傷後の対応

- ・患部からの毒液除去。・身体に回る毒成分の量を減らすため、毒液はできるだけ速やかに市販の器具を用いて吸い出す。・患部を冷やして、迅速に医療機関で手当を受ける。



6月下旬のコガタスズメバチの巣

<ツタウルシ>

人に「かぶれ」を起こすツタウルシは、春先には赤色を呈しており比較的、他の植物と区別が容易なのですが、緑が繁茂する夏以降では区別がやや難しくなり被害を生じることが多くなります。道ばたのツタウルシには十分に留意してください。

瑞穂の池

森林公園の池の多くは、水田のため池として使用されていましたが、現在は大半の池が環境保全用に変更しています。「瑞穂の池」の歴史を検証することで、公園内の池の過去の役割を振り返りましょう。

大麻での水田耕作は明治27年の「赤毛種」で始まり、掘井戸での地下水を利用して、水田面積が増加する中で貯水池の造成が開始されました。しかし、大正15年9月の集中豪雨により丘橋貯水地（現在の道立博物館前庭）、金木貯水池（江別と白石の境）など地域の貯水池が決壊しました。そのため、森林公園の敷地に白石第一土工組合が「瑞穂の池」を昭和3年に竣工し、大曲・白石方面に灌漑水を供給しました。溜池は実り豊かな水田を願い「瑞穂の池」と命名したのです。しかし、昭和30年、再度豪雨のため決壊し、昭和32年再び「瑞穂の池」は復旧されました。その後、地域は都市化などの進行もあり、昭和48年からは市民の憩いの場へと変貌を遂げています。

（啓成高校新聞「石碑は語る」、新江別市史、大麻開基80年誌を参照）



アケボノソウ

アケボノソウ（曙草）は初秋のゴールドスターと称され、多くの方々が開花を待ち焦がれる人気の野草ですが、北海道の自然環境では生育がなかなか困難です。メマツヨイグサ、フデリンドウと同じく2年生草本のため、実生での発芽環境が不良で越冬数が少なく、翌年開花する個体が少ないと想像されています。花茎を伸長する株の近辺に低温に遭遇していないロゼット状の株が存在することがあります。その姿は極めてオオバコの様子に似ていますが、それらは種子が落下した翌年以降に発芽したものです。今年アケボノソウの周辺に来年開花する株は存在しているのでしょうか。※2年生草本＝発芽後、越冬して開花する植物



オオハンゴンソウ

特定外来生物に指定されている13種の植物中で、北海道に「アレチウリ」、「オオキンケイギク」、「オオハンゴンソウ」などが存在していますが、野幌森林公園ではオオハンゴンソウが繁殖して他の植物を駆逐し続けています。中央線の戦後開拓後の林地では排水不良地で極端に繁殖しています。

年1回、ボラレンをはじめ公園関係者と一般参加者を含めて駆除作業を実施していますが、現状以上に繁殖地の拡大を抑制するのが精一杯ですが、今後も継続し駆除業の実施が必要です。今後は、皆さんも駆除作業への参加を期待しています。



<自然の案内人になろう 受講者募集中です>

ボランティア・レジャー育成研修会

9月29日（金）～10月1日（日） ・会場・申込先：自然ふれあい交流館

<観察会>

8月20日（日）10：00～12：00

胆振地区自然観察会 苫小牧市緑ヶ丘公園金太郎の池集合

8月26日（土）9：00～

小樽支部自然観察会「塩谷丸山」JR塩谷駅前集合

9月 3日（日）10：00～12：30

恵庭公園中央駐車場集合

文責：三井 茂